

# 報告書

## 第六屆臺灣藥學聯合學術研討會にて口頭発表

2024年11月16日、17日に台湾の台中市で開催された「第六屆臺灣藥學聯合學術研討會」に参加しました。本学会のテーマは「New Mindset for Future Pharmaceutical Practices」であり、実際に臨床で働いている薬剤師の方や、様々な分野の研究者が参加し、活発な議論を交わしていました。私自身、他の研究者たちの研究成果を多く見ることができ、各々がもつその熱意に触発されました。

私は、「Improvement on biopharmaceutical properties of isoimperatorin using solid dispersion techniques (固体分散体技術を用いた isoimperatorin の生物薬剤学的特性向上)」という題目で口頭発表を行いました。本研究は、セリ科やミカン科の植物から抽出される isoimperatorin を活性化化合物として、湿式粉碎を用いた一般的な固体分散体と、両親媒性ポリマーを担体として用いた自己ミセル形成型固体分散体の2種類の製剤を開発し、その経口吸収性の向上を指向しました。開発した2つの製剤について、物理化学的特性ならびにラットを用いた経口投与後の薬物動態を精査し、その結果と考察を発表しました。また今後の展望として、喘息に対するより効果的な治療を目的として、吸入剤の開発を行っていることも併せて発表しました。

今回が初めての国際学会参加であったため、発表の原稿などは何度も読んで練習し、英語での発表なので発音などには特に気を付けて準備を行いました。その結果、発表内容の説明は練習の成果を十分に発揮することができたと感じております。質疑応答に関しても、時折理解できない表現は出てきましたが、概ね良好なコミュニケーションをとることができたと感じています。一方で、他の研究に対する質問等に関してはコミュニケーションに苦勞する場面があったため、今後とも継続して英語学習を続けていかなければならないと感じました。

今回の学会参加を通じて、世界中で自分と似た分野の研究や、先進的な研究が行われていることを肌で感じ、研究のとらえ方や視野が広がりました。自分自身も、より良い成果を生み出せるように、より一層熱心に研究に取り組む必要があると感じました。この度は、貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。



薬食生命科学総合学府 薬科学専攻  
薬剤学講座  
博士前期課程 1年 稲本 悠人